

(平成19年8月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>8月期の野菜の入荷状況については、7月の長梅雨と8月の異常な高温旱魃という両極端な厳しい気象条件が入荷量に大きく左右する結果となった。とりわけ、葉菜類は、栽培形態から両方の気象の影響を受けることとなったため、品質の低下も含め終始不安定な入荷状況で推移した。また、輸入松茸については、中国産農産物の消費者離れが顕著に現れることとなった。入荷量全体では、不安定な生産状況であったことから中央市場の集散機能が発揮され、結果として、前年同期を4%上回る入荷量となった。</p> <p>価格は、激しく変化した気象条件による不安定な入荷状況であったことから、最終的に入荷増とはなったものの、良好な販売環境で終始した。しかしながら、昨年が極めて高値で推移したことから前年同期を10%下回る結果となった。</p> <p>品目別には、西洋ニンジン、キャベツ、なす、トマト、ばれいしょ、玉ねぎが入荷増の単価安で推移した。また、長大根、はくさい、松茸は入荷減にあって単価安であった。ほうれんそう、ピーマンは、入荷は前年並みで単価安で推移した。</p> <p>根菜類は、入荷が前年並みで、価格は26%安となった。</p> <p>葉菜類は、入荷が4%増加し、価格は6%安となった。</p> <p>果菜類は、入荷が7%増加し、価格は13%安となった。</p> <p>土物類は、入荷が6%増加し、価格は13%安となった。</p>
果 実	<p>8月期の果実の入荷状況は、ぶどうにおいては、高温旱魃の影響による品質の低下から入荷量が減少し、リンゴ、梨においては、好天による前進出荷となり入荷増となった。結果的に入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は、全般的に糖度が高く食味が良好であり、また、記録的な連日の猛暑によりスイカ等の販売環境が極めて良好であったこと、さらに、お盆需要も重なり結果的に前年同期を5%上回った。</p> <p>柑橘類は、入荷が前年並みで、価格は7%高となった。</p> <p>りんごは、入荷が39%増加し、価格は前年並みとなった。</p> <p>なし類は、入荷が15%増加し、価格は前年並みとなった。</p> <p>もも類は、入荷が18%減少し、価格は5%安となった。</p> <p>ぶどうは、入荷が11%減少し、価格は13%高となった。</p> <p>メロンは、入荷が6%減少し、価格は7%安となった。</p> <p>スイカは、入荷が3%減少し、価格は21%高となった。</p>

主要品目(野菜)	市況の概況
<b>【根菜類】</b>	
長大根	<p>北海道を中心とする入荷。お盆までは順調な入荷であったが、8月の異常な高温によって生育不良となり、後半にかけて入荷量は減少した。結果として、前年同期を9%下回った。</p> <p>価格は、高温障害による入荷減から下旬にかけて一時的な高騰があったものの、結果として、上中旬の単価安が影響し、前年同期を4%下回った。</p>
洋人参	<p>北海道を中心とする入荷。主力の北海道の作付面積の拡大に重ねて順調な生育となり太物も多く、極めて順調な入荷となった。</p> <p>結果として、前年同期を32%上回った。</p> <p>価格は、後半に出荷調整に入ったものの、結果的に、極端な単価安で推移することとなり、前年同期を58%下回った。</p>
<b>【葉菜類】</b>	
はくさい	<p>長野県を中心に一部北海道からの入荷。7月の低温・日照不足と8月の長期化した高温旱魃という極端な気象条件の影響を受け、生育は悪く小玉で下位等級の発生も多く、不安定な入荷状況となった。結果的に、前年同期を3%下回った。</p> <p>価格は、品質の低下に加えて、異常な高温であったことから、品目の特性上、一般消費・加工業務ともに荷動きが悪く、また、昨年が極めて高値であったことから、結果的に前年同期を38%下回った。</p>
キャベツ	<p>群馬県、長野県を主力に北海道からの入荷。各産地ともに高温旱魃の影響から不安定な出荷となったが、中央市場の集散機能が発揮され、結果的に、前年同期を18%上回った。</p> <p>価格は、一般消費・加工業務ともに荷動きが良好であり、入荷増にあって、順調な販売となった。しかし、前年が高値推移であったことから、結果的に前年同期を3%下回った。</p>
ほうれんそう	<p>岐阜県を中心に北海道、茨城県からの入荷。各産地ともに高温旱魃の影響を受け、不安定な入荷となったものの、結果的に前年並みとなった。</p> <p>価格は、昨年が高値推移であったことから、前年同期を5%下回った。</p>
レタス	<p>長野県を中心に一部北海道からの入荷。7月の低温・日照不足と8月の長期化した高温旱魃という極端な気象条件の影響を受け、生育は悪く小玉で下位等級の発生も多く、結果的に、前年同期を5%下回った。</p> <p>価格は、入荷減に加えて一般消費・加工業務ともに荷動きが良好で、結果的に前年同期を27%上回った。</p>

<b>【果菜類】</b>	
きゅうり	福島県、愛媛県、京都府を中心とする入荷。北海道産は例年より早い入荷となり、全体の入荷量としては前年並みとなった。 価格は、順調な入荷にあって、順調な販売が続き、前年同期を3%上回った。
なす	京都府を中心に徳島県からの入荷。長期化した梅雨明け後は、順調な入荷となった。とりわけ、お盆以後の入荷が順調となり、結果的には前年同期を9%上回った。 価格は、入荷増に加えて、高温の影響から品質の低下が懸念され、消費がやや低迷した。結果として、前年同期を18%下回った。
トマト	岐阜県、北海道を中心に京都府からの入荷。北海道は7月の低温の影響から、小玉中心の入荷となった。その他の産地は、良好な販売環境から安定した入荷となり、結果的に前年同期を8%上回った。 価格は、入荷増と昨年が高値推移であったことから、前年同期を11%下回った。
ピーマン	大分県、兵庫県、福島県を中心に入荷。兵庫県産は高温による天候不順によって入荷量は不安定となったが、福島県産を中心に順調な入荷となり、全体の入荷量としては前年並みとなった。 価格は、順調な入荷にあって、昨年が高値推移であったことから、前年同期を19%下回った。
<b>【土物類】</b>	
ばれいしょ (メーク含む)	青森県、北海道を中心とする入荷。北海道の栽培面積の拡大に加え、生育も順調となり前進出荷で前年同期を9%上回った。 価格は、入荷増に加えて下級品の発生が多く、また、流通在庫を抱える状況もあり、前年同期を30%下回る結果となった。
たまねぎ	兵庫県を中心とする入荷。作柄良好で入荷量も増加し、全体としては前年同期を8%上回った。 価格は、入荷増と全般的な出回り量が多い状況から安値で推移し、前年同期を19%下回った。

主要品目（果実）	市況の概況
ハウスみかん	佐賀県、長崎県、和歌山県を中心に入荷。各産地とも前進出荷傾向となり、中旬までに集中した。結果としては前年並みとなった。価格は、お盆の需要期とも重なり、前年同期を8%上回った。
津 軽 (サン含む)	長野県を中心に山形県からの入荷。生育は良好で、前進出荷となり極端な入荷増となった。結果的に前年同期を40%上回った。 価格は、入荷増に加えて、着色不良が目立ったため、前年同期を5%下回った。
幸水なし	佐賀県、徳島県、長野県を中心に鳥取県からの入荷。入荷は順調で前年同期を6%上回った。 価格は、入荷増にあって、お盆需要とも重なり順調な販売環境で、結果的に前年並みとなった。
二十世紀なし	鳥取県を中心に入荷。7月の雨量も十分で、大玉で順調な入荷となった。全体の入荷量は前年同期を23%上回った。 価格は、入荷増ながら糖度も高く、大玉を中心に高値で推移し、全体としては前年並みとなった。
も も	山梨県、長野県を中心に福島県からの入荷。全体的に高温旱魃の影響から、着色不良や核割れの発生がみられたため、入荷量は前年同期を18%下回った。 価格は、大玉果では高値であったが、入荷減ながら全体としては前年同期を5%下回った。
デラウェア	山梨県、山形県を中心に入荷。7月の台風の影響から玉割れの被害が出ており、入荷減少し前年同期を17%下回った。 価格は、入荷減に加えて、お盆需要に支えられ前年同期を10%上回った。
巨 峰	山梨県、福岡県、長野県を中心とする入荷。高温障害として着色不良の発生があり、入荷数量は減少し、前年同期を14%下回った。 価格は、入荷減に加えて、お盆需要に支えられ前年同期を13%上回った。
アールス	愛知県、静岡県を中心に茨城県、長崎県からの入荷。各産地ともに作付けが減少しており、全体の入荷量は前年同期を20%下回った。 価格は、入荷減に加えて、お盆需要に支えられ前年同期を15%上回った。

大玉すいか	<p>山形県，長野県を中心に秋田県からの入荷。長野県，北陸産地の入荷が少なかったものの，東北産地の入荷が順調であり，全体の入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は，順調な入荷状況の中，連日の猛暑により引き合いが強く終始高値で推移した。結果的に前年同期を 22% 上回った。</p>
-------	--